

須江上段遺跡

—ヨコキ地区—

県営山田北部圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992. 3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

須江上段遺跡

—ヨコキ地区—

県営山田北部圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992. 3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

土佐山田町は高知県の中央部、南国市の北部に位置する所ですが、町域の南部は物部川や国分川によって形成された高知平野の一部を占めており、水田地域を中心とする平野部と北部の山地からなる町です。

土佐山田町の最古の遺跡は、現在のところ縄文時代早期の飼古屋岩陰遺跡ですが、それ以降縄文時代の遺跡は少なく、弥生時代になると著名な竜河洞洞穴遺跡やひびのき遺跡などの遺跡が多数存在しています。さらに古墳時代になると、山麓部に古墳が多くみられ、須恵器の窯跡も同じく山麓部に集中しており、県下最大の古窯跡群となっております。

今回の調査が行われた須江上段遺跡は、国分川の左岸に広がる遺跡ですが、須江と言う地名が示すとおり古代の須恵器生産拠点であったようです。当遺跡は古墳時代から古代を中心とする複合遺跡であり、圃場整備に伴う試掘調査や本調査が行われています。今回のヨコキ地区の調査はやはり圃場整備事業に伴う緊急調査であり、調査範囲は決して広くありませんでしたが須恵器・土師器跡等が発見され、貴重な資料を検出することができました。この資料が今後、土佐山田町の歴史を知る上で活用されれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたってご協力をいただきました、高知県耕地課、南国耕地事務所、山田北部土地改良区、土佐山田町、土佐山田町教育委員会、地元須江地区、そして作業員の皆様に感謝を申し上げます。

1992年 3 月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長 小 橋 一 民

例 言

1. 本書は、県営山田北部圃場整備事業に伴う須江上段遺跡の発掘調査報告書である。
2. 須江上段遺跡は広範囲に広がる遺跡であり、今回の調査対象地の字名により須江上段遺跡－ヨコキ地区－との名称とした。
3. 発掘調査は、県教育委員会の指導のもと、原因者である高知県、土佐山田町、山田北部土地改良区、土佐山田町教育委員会との協議により、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、高知県及び土佐山田町の委託を受け実施した。
4. 調査期間は平成3年10月2日から10月24日までであり、調査面積は400㎡であった。
5. 発掘調査は調査第2係が担当し、担当調査員は中山泰弘（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター調査員）である。
6. 本書の執筆、編集は中山が行った。
7. 発掘調査にあたっては、高知県耕地課、南国耕地事務所、土佐山田町、山田北部土地改区、土佐山田町教育委員会、地元須江地区に協力を頂いた。記して感謝する次第である。
8. 須江上段遺跡－ヨコキ地区－の調査略号は91－10YSYであり、遺物、図面、写真等の資料は、高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管されている。

報告書要約

1. 遺 跡 名 須江上段遺跡
ヨコキ地区 遺跡番号 190072
2. 地図番号 No.10-382
3. 所 在 地 高知県香美郡土佐山田町須江
立地新改川左岸の段丘下面
4. 種 類 奈良～平安時代 散布地
5. 調査主体 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター
6. 調査契機 県営山田北部圃場整備事業
7. 調査期間 平成3年10月2日～10月24日
8. 調査面積 400m²
9. 検出遺構 遺物集中
10. 出土遺物 須恵器・土師器
11. 内容要約 須江上段遺跡は、新改川の左岸の段丘上を中心とする広範囲に広がる遺跡である。時期的には奈良～平安時代を中心としており、北の山麓部には多数の須恵器の窯跡が存在することから須恵器生産に関連する官衙的な性格を有する遺跡の可能性が指摘される。今回の調査では、遺構、遺物ともに検出量は少なく遺跡の性格についての詳細は不明であるが、遺跡の範囲の中で段丘下面における状況が判明した。

本文目次

1. 調査に至る経過	1
2. 地理的・歴史的環境	2
(1) 地理的環境	2
(2) 歴史的環境	2
3. 調査の概要	6
(1) 調査方法	6
(2) 調査内容	7
4. 遺物	12
5. まとめ	13

挿図目次

Fig. 1 土佐山田町位置図	1
Fig. 2 周辺遺跡分布図	4
Fig. 3 須江上段遺跡位置図	6
Fig. 4 調査区設定図	8
Fig. 5 試掘グリッド土層柱状図	10
Fig. 6 A区拡張区遺物出土状況	11
Fig. 7 出土遺物	12

表目次

Tab. 1 周辺遺跡地名表	5
----------------------	---

写真図版目次

PL. 1 第A区TR 1 (南より)・セクション、第A区TR 2 (南より)・セクション、 第A区TR 3 (南より)・セクション、第A区TR 4 (南より)・セクション	
PL. 2 第A区TR 5 (南より)・セクション、第A区TR 6 (南より)・セクション、 第A区TR 7 (南より)・セクション、第B区TR 1 (南より)・セクション	

- PL. 3 第B区TR 2 (南より)・セクション、第B区TR 3 (南より)・セクション、
第B区TR 4 (南より)・セクション、第B区TR 5 (南より)・セクション
- PL. 4 第A区拡張区 1 (南より)・(北より)、第A区拡張区 2 (南より)、A区拡張区
遺物出土状態(南より)、第A区拡張区 1 遺物出土状態(東より)、第A区拡張
区 1 遺物出土状態(西より)、第A区拡張区 1 遺物出土状態(東より)、第A区
拡張区 2 遺物出土状態(北より)
- PL. 5 出土遺物 1 (表)・出土遺物 1 (裏)

1. 調査に至る経過

須江上段遺跡は、昭和63年度と平成元年度に行われた香美・長岡郡及び南国市の遺跡詳細分布調査において確認された遺跡である。位置的には国分川左岸の段丘面及び下面の沖積面にあたり、広い範囲に遺物が分布している。段丘面上では分布調査以前からある程度の遺物の分布が確認されており、須江の地名及び北部の山麓部に分布する窯跡や古墳の存在からしてみると大規模な遺跡が立地しているのではないかと考えられていた。

遺跡分布調査と前後して、須江地区を含む山田北部地区の圃場整備事業計画が進められていた。この圃場整備計画は大規模なものであり、計画地内には須江上段遺跡をはじめとする遺跡群が含まれており、また遺跡の範囲外においても未確認の遺跡が存在する可能性があるため、事前の確認調査が行われることとなった。確認調査の結果、遺構・遺物の集中地域とそれ以外の分布密度の低い地域が判明した。今回の調査対象地では、遺構の存在は明確にはならなかったが、多量の土師器等が出土しており、圃場整備事業との調整が行われた。その結果、工法変更による盛土することにより遺跡の保存を図ったが、道路・水路部分については掘削工事が行われるため、記録保存のための発掘調査が必要となった。発掘調査は、県教育委員会の指導のもとに南国耕地事務所、土佐山田町、土佐山田町教育委員会、山田北部土地改良区と協議のうえ、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、県及び土佐山田町の委託を受け実施することとなった。発掘調査対象地は段丘下面の道路・水路部分であり、調査対象面積は2,400㎡である。調査期間は平成3年10月2日～10月24日であった。

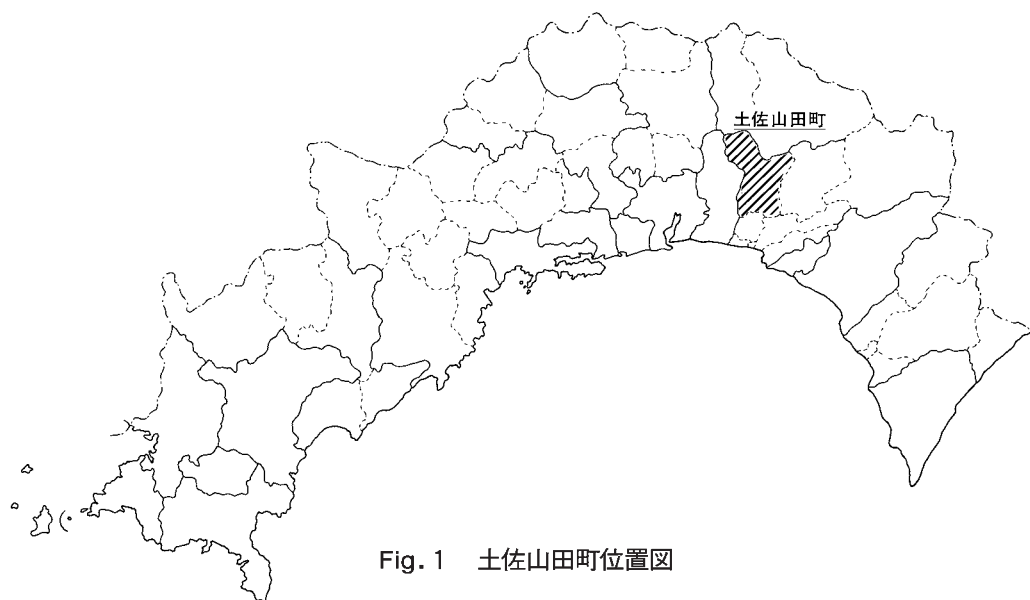


Fig. 1 土佐山田町位置図

2. 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

今回の調査対象地となった須江上段遺跡は、土佐山田町の中心である山田の町街の北西に位置している。当地域は新改川（中・下流域では国分川）とこれに流れ込む小河川による河岸段丘と沖積地が広がる平野部であり、南国市及び高知市へと続いている。高知平野の中で、物部川の沖積地と共に国分川の沖積地が北半部を形成している。現況は、沖積面のほとんどが水田地帯であり、段丘面上は水田と畑地・ビニールハウス等が散在しており、農村地帯の風景を今でも見ることができる。水田は自然地形に即した不正形であり、圃場や農道も狭く、耕作に非効率的であった。このような状態を解消するために今回の山田北部圃場整備事業が計画されたものである。

須江地区は、新改川の南北両岸に渡り広がっているが、今回の調査対象地となった部分は新改川の南岸（左岸）である。現地は新改川に南に広がる沖積面とさらにその南に続く段丘面であり、圃場整備は下面の沖積面を中心に行われた。沖積面と段丘面との間には比高差約3～4mの段丘崖がみられ、新改川の流路に平行するように開きながら南西に続いている。沖積面の標高は25～26mであり、段丘面上の標高は約30mである。地質的には段丘面が古期扇状地であり、沖積面と記した下面は新期扇状地であり、段丘面上には通常の場合、黒ボク土がみられる。黒ボク土の下層には段丘礫層が存在しており、場所によっては削平等により表土直下に礫層が出ている。

(2) 歴史的環境

土佐山田町の歴史は、現在のところ縄文時代早期まで遡ることができ、町内最古の遺跡として、飼古屋岩陰遺跡を取上げることができる。飼古屋岩陰遺跡は土佐山田町繁藤に位置しており、吉野川水系の支流である穴内川の上流部に存在する岩陰遺跡である。当遺跡の発掘調査は、四国横断自動車道の建設に伴い昭和57年に実施されており、岩陰の前庭部を中心に遺物が出土している。遺物は縄文時代早期の押型文土器とともに多量の石鋸がみられるが、弥生土器、須恵器等も混在しており、岩陰内の遺物が後世に前庭部へ流出した二次堆積と考えられる。他の縄文時代の遺跡は、少量の遺物が採集されたものが多く遺跡数も少ないため、詳細については不明な点が多い。

弥生時代になると遺跡数も増加し、見るべきものがある。前期の遺跡は未発見であるが、中期から後期にかけての遺跡の分布は町内に広がっており、中期では龍河洞洞穴遺跡や後期後半になるとひびのき遺跡等の著名な遺跡も存在している。龍河洞洞穴遺跡は標高約320m三宝山の中腹に開口する石灰岩の洞穴であり、後期後半の土器をまとまって出土した高地性遺跡として、龍河洞式土器の標式遺跡となっている。ひびのき遺跡は土佐山田町の町街に位置しており、農協関係の施設建設に伴い調査が行われている。調査の結果、竪穴住居跡が検出され、やはり後期後半のひびのき式土器の標式遺跡となっている。この他にも、稲荷前遺、伏原南遺跡、ひびのきサウジ遺跡、林田遺跡等の調査が行われており、中期後半から後期にかけての資料が検出されている。土佐山田町における弥生時代の遺跡の立地としては、やはり段丘上に位置する例が多いが、下面の沖積面においても遺跡は散在しており、平野部全域に遺跡が展開している。

古墳時代では、山麓部を中心として横穴式石室を持つ後期古墳が存在している。特に須江地区から植・前行・予岳地区の山麓部には集中的に立地しており、南国市の船岩古墳群とともに後期古墳の集中地帯になっている。

また、町街に存在する伏原大塚古墳は大形の石室を持つ古墳であり、これまで帆立貝式の前方後円墳ではないかとされており、県下では宿毛市平田の平田曾我山古墳（昭和28年に削平）とともに2基の前方後円墳の一つであった。しかし平成3年度の確認調査の結果、前方後方墳の可能性が指摘され、最終的には方墳との見方が強い。また、溝からは須恵器の円筒埴輪が出土しており、県下では埴輪の唯一の出土例となっているなど、特徴的な古墳である。さらに須江地区には、新改川の北岸（右岸）に須江大塚古墳（須江塚穴古墳）が存在しているが、明治年間に開墾のため墳丘が削平され、石室も解体されたため、現況では円形を呈した圃場の畔として古墳の形と位置を窺い知るのみである。

古墳の存在する山麓部から新改川の最上流部にかけての谷筋には須恵器の窯跡も多数発見されており、古墳時代ばかりではなく古代においても重要な地域であったと考えられる。

古代においては、須恵器、土師器が散布する遺跡も多く見られるが、発掘調査によってその内容が確認された遺跡は少なく、全体的な状況は不明な点が多い。発掘調査が行われた遺跡としてはひびのきサウジ遺跡があげられる。ひびのきサウジ遺跡では弥生時代終末から古墳時代にかけての住居跡とともに井戸が検出されている。この井戸から「括資料として10～11世紀の黒色土器や土師器が出土しており、古代における土器編年に関する重要な資料となっている。須恵器の窯跡は須江地区の名称になるように新改川の上流域に及ぶ山麓部に集中しており、時期的には7世紀以降の窯跡が中心である。中には新改川（国分川）の下流に位置する比江廃寺跡から出土する瓦と同じ瓦を焼成したと考えられるタンガン窯跡が存在しており、国分川の水運を考えれば国府とも大いに関連ある窯跡群であったとみられる。このように須江古窯跡群は県下最大の須恵器生産地であることからすれば、須江地区には須恵器生産に関わる遺跡の存在が考えられ、特に須江上段遺跡においては須恵器の集積、搬出地としての機能を持つ遺跡の立地が想定される。また須江上段遺跡内には南海道の駅跡と推定されている方形区画が存在しており、古窯跡群の存在とともに古代における土佐山田地域の重要性をみることができる。

中世の土佐山田町についても発掘調査例は少なく、具体的な様相は不明であるが、戦国時代には有力な在地領主である山田氏の根拠地となり、町街の北に居城である山田城跡が存在している。また沖積面には高柳土居城跡のような方形館が存在しており、一部には土塁の痕跡である盛土が残存している。また土塁の外側には堀跡と考えられる水田も残されており、方形館の規模を推定することができる。高柳土居城跡では、圃場整備事業に関連して堀部分の発掘調査が行われており、かなり大規模な堀の存在が確認され、土師質土器や青磁等も出土している。

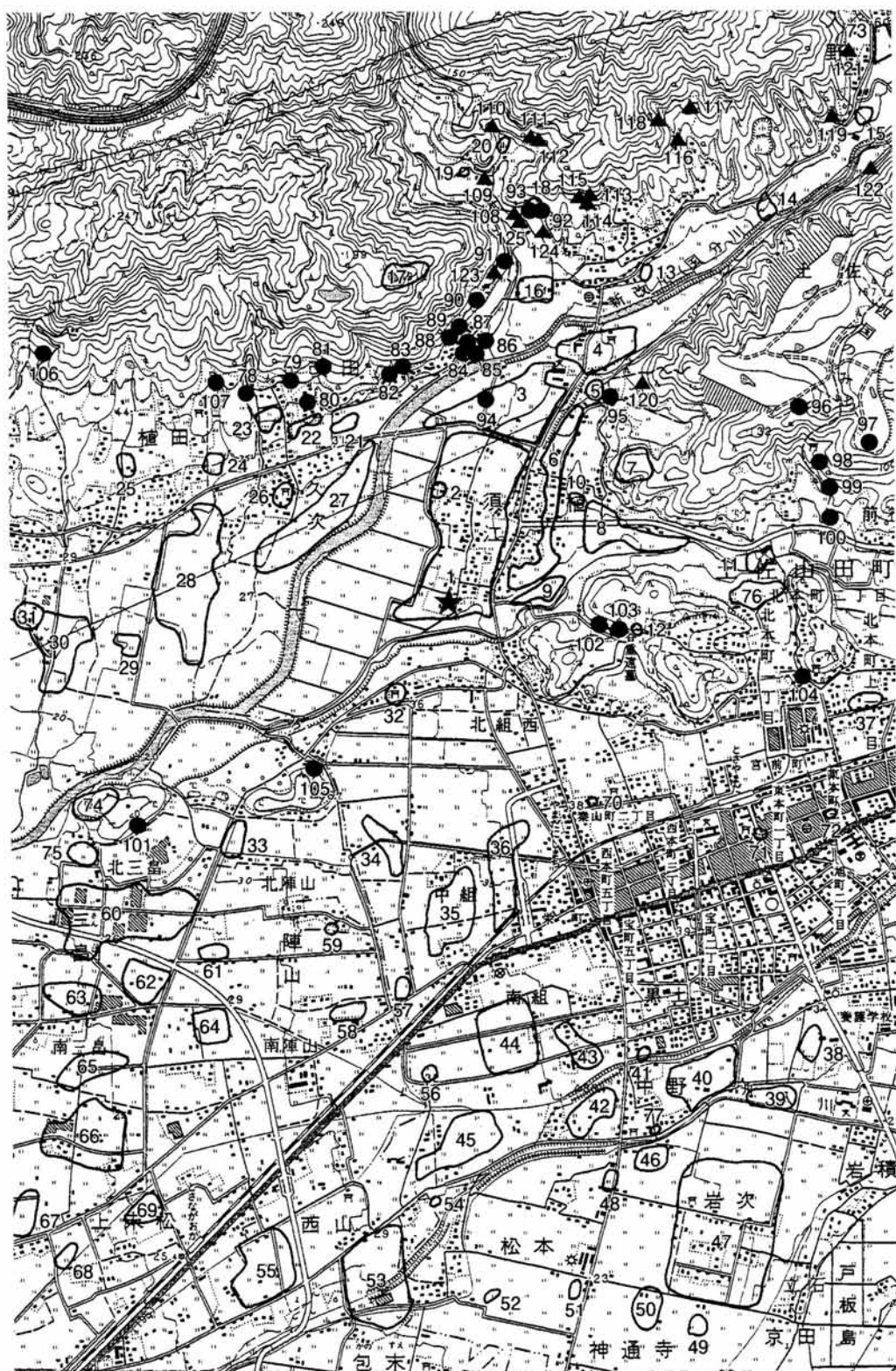


Fig. 2 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

Tab. 1 周辺遺跡地名表

番号	遺 跡 名	番号	遺 跡 名	番号	遺 跡 名	番号	遺 跡 名
1	須江上段遺跡	33	三町遺跡	65	南池知遺跡	97	杖坂古墳
2	須江駅跡	34	浜道の西遺跡	66	池ノ上遺跡	98	中沢古墳
3	須江北遺跡	35	山田三ツ又遺跡	67	八反地遺跡	99	溝淵古墳
4	藁原神社遺跡	36	山田三ツ又東遺跡	68	末松遺跡	100	桜ヶ丘古墳
5	タンガン遺跡	37	長谷川丸遺跡	69	五反地遺跡	101	三皇山古墳
6	植南土居遺跡	38	クロアイ遺跡	70	谷 重遠邸跡	102	前山1・2号古墳
7	植村城跡	39	野々下遺跡	71	公儀の井戸1	103	前山3号古墳
8	西クレドリ遺跡	40	下タ野遺跡	72	公儀の井戸2	104	八王子西古墳
9	モジリカワ遺跡	41	黒土遺跡	73	入野遺跡	105	陣山古墳
10	植カドタ遺跡	42	坂西遺跡	74	三皇城跡	106	高松古墳
11	植キノサキ遺跡	43	中井ノ北遺跡	75	三皇遺跡	107	植田古墳群
12	谷 重遠墓	44	東臼井遺跡	76	山ノ間丸遺跡	108	小山田3号窯跡
13	屋甫田丸遺跡	45	松原丸遺跡	77	野中兼山邸跡	109	西谷1～3号窯跡
14	三反山田遺跡	46	東時光石遺跡	78	西ノ久保古墳	110	東谷松本窯跡
15	入野南遺跡	47	大領遺跡	79	次郎ヶ谷西古墳	111	東谷2号窯跡
16	南ヶ内遺跡	48	口戸遺跡	80	次郎ヶ谷古墳	112	東谷1号窯跡
17	改田氏物見の城跡	49	ヤイタ遺跡	81	田村氏古墳	113	林谷3号窯跡
18	松本山長久寺跡	50	下門田遺跡	82	亀ヶ谷2号古墳	114	林谷2号窯跡
19	西谷遺跡	51	神通寺遺跡	83	亀ヶ谷1号古墳	115	林谷1号窯跡
20	勝福寺跡	52	七反田遺跡	84	新改3号古墳	116	大谷1号窯跡
21	東山田遺跡	53	金地遺跡	85	新改2号古墳	117	大谷2号窯跡
22	辻谷田遺跡	54	松原丸下遺跡	86	新改古墳	118	大谷3号窯跡
23	北野遺跡	55	野村丸遺跡	87	新改4号古墳	119	ハヶ谷窯跡
24	寺中遺跡	56	新町遺跡	88	椎山2号古墳	120	植タンガン窯跡
25	植田土居城跡	57	山田三ツ又西遺跡	89	椎山1号古墳	121	岡ノ丸窯跡
26	久次土居城跡	58	東弥市遺跡	90	西ノ内1号古墳	122	植セイガイ窯跡
27	改田神母遺跡	59	有光北鍵山遺跡	91	西ノ内2号古墳	123	西ノ内窯跡
28	ハザマダ遺跡	60	三皇遺跡	92	小山田2号古墳	124	小山田1号窯跡
29	畑ヶ田遺跡	61	白山遺跡	93	小山田1号古墳	125	小山田2号窯跡
30	泉ヶ内遺跡	62	水通遺跡	94	須江塚穴古墳		
31	沖ノ土居城跡	63	福重遺跡	95	段貫古墳		
32	野中神社	64	神明遺跡	96	深坂古墳		

3. 調査の概要

(1) 調査方法

調査対象地は先に述べたとおり、圃場整備事業予定地の中で道路・水路部分である。圃場整備計画によると、段丘面と下面の沖積面を境とする段丘崖に沿って幅員約10mの道路とこれに接して水路を建設のものであった。先行して行った国庫補助事業による試掘調査の結果では段丘崖より遺物の分布が認められており、特にヨコキ地区周辺においては段丘面からの遺物の散布も考えられるところから発掘調査を実施することとなった。

現地は水田であり、道路・水路部分であるので南北に長い対象地であった。また遺物の分布密度についても十分な情報がないことから、まず4 m×4 mを基本とするグリッドにより調査対象地全体の確認を行うこととした。調査対象地のほぼ中央に東西方向の町道が走っており、これを境として北をA区、南をB区として北よりグリッドを設定した。

A区のグリッドは北からGA1～GA7までの7グリッドであり、B区も同様に北からGB1～GB5の5グリッドの合計12グリッドであった。4 mグリッドによる確認調査の結果、遺物の

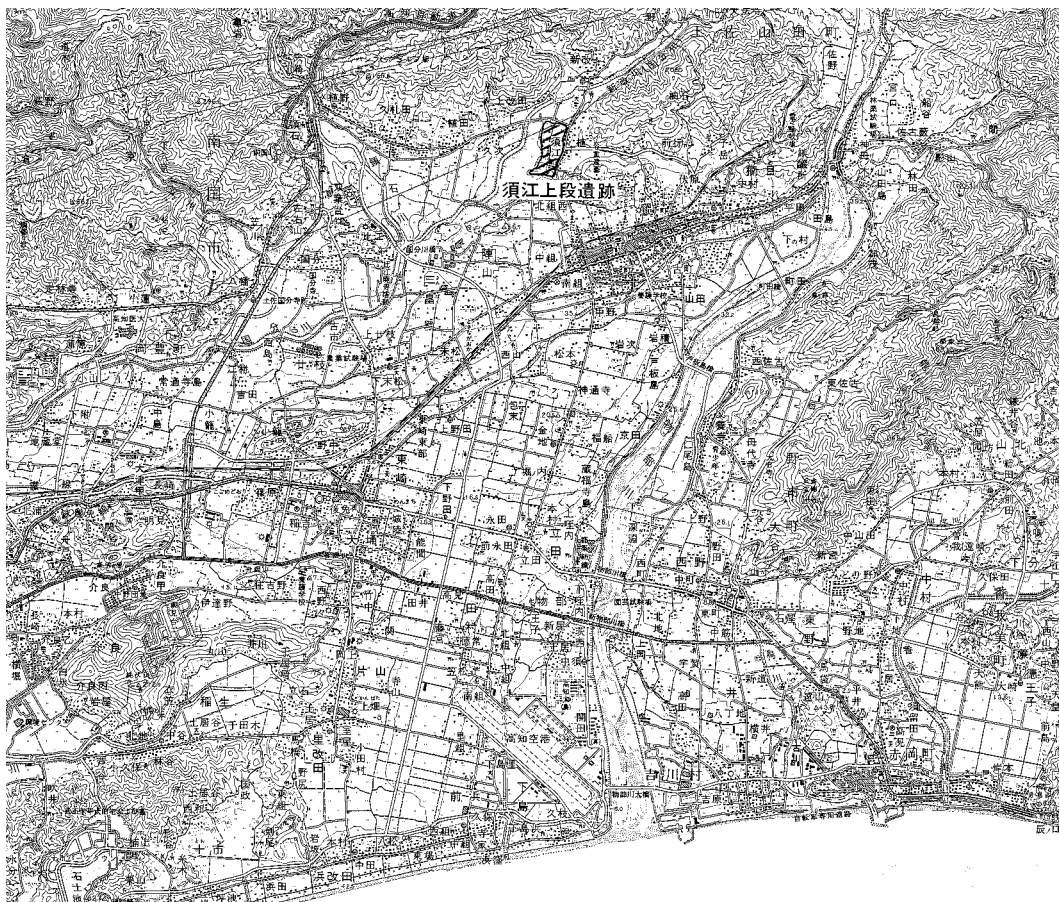


Fig. 3 須江上段遺跡位置図 (S=1/100,000)

集中がみられたのはA区のグリッドGA2～GA4の間であり、この範囲を拡張し本調査の範囲とした。本調査の拡張範囲は現地の状況に応じて拡張区1と拡張区2の2調査区に分けられたが、A区の道路・水路部分を連続的に調査することとなった。

拡張区1は長さ約35m幅7mであり、南に隣接する拡張区2は長さ約15m幅7mであり、調査面積は348m²であった。なおB区の確認調査面積は52m²であり、A区の調査面積と合計すれば今回の発掘調査面積は全体で400m²となる。調査にあたっては表土及び上層の無遺物層は重機により掘削を行い、下層の遺物包含層は人力にて遺物の検出を行った。また、遺構については拡張区とともに地山面の精査を行ったが検出することはできず、結果的に遺物包含層の調査によって今回の発掘調査は終了した。

(2) 調査内容

1. グリッド調査

圃場整備事業計画地内の道路・水路部分については調整の結果、変更することができなかったため記録保存による発掘調査を実施することとなった。調査にあたっては、遺構・遺物の分布状況をより詳細に知るために、まず対象地に4mグリッドを基本とした確認調査を行った。調査の結果、北半部であるA区において遺物の集中が確認されたので、拡張し本調査を実施することとなった。各試掘グリッドの層層遺物の出土状況は別表のとおりであるが、A・B両区ともに遺構は検出されなかった。

試掘調査のグリッドの層序は各グリッドにより異なるが、A区では耕作土下に灰黒色粘土または灰黒色砂質土がみられ、浅い部分では下に砂礫層が、深いところでは砂礫層との間に黄褐色砂質土青灰色粘土等の土層が存在している。B区においては灰色及び灰黒色の粘質土が耕作土の下にみられ、さらに一部では砂・礫を含む黒色粘土が存在しており、山の砂礫層となる。

A・B区ともに灰黒色粘土及び黒色粘土が遺物包含層であり、須恵器、土師器が出土している。中でも試掘グリッドのGA2・3を中心に遺物が多く出土したことから、この範囲を拡張区1として拡張することとした。また、GA4・5についてもやや多くの遺物が出土したので、この間を拡張区2として拡張した。GA3・4では段丘崖に近い部分において段丘面上からの流れ込みの黒ボク土がみられ、やはり遺物が含まれていた。各試掘グリッドはすべて地山面まで掘り下げ、遺構の検出に努めたが、今回の調査範囲において遺構は検出されず、すべて遺物包含層の存在が確認されたのみであった。



Fig. 4 調査区設定図 (S=1/2,000)

2. 拡張区調査 2

確認調査の結果から先述のように、A区において拡張区1と拡張区2の2箇所を拡張し、本調査を行った。拡張区1は試掘グリッドGA2・3を中心とした調査区であり、幅約6m、長さ約40m、調査面積約240m²であった。拡張区2は試掘グリッドGA4とGA5との間に設定された調査区であり、やはり幅約6m、長さ約10m、調査面積は66m²で南端部が一部西に拡張されている。拡張区1の基本層序は6層であり、1層耕作土(15cm)、2層灰黒色粘質土(15cm)、3層黄褐色粘砂土(10cm)、4層淡黒色粘質土(30cm)、5層黒色粘質土(10～30cm)、6層砂礫土(地山)である。また、拡張区2における基本層序も拡張区1にほぼ同様であるが、段丘崖からの黒ボク土の流れ込みが調査区東側に顕著にみられる。

遺物はこの黒ボク土からも出土するが、遺物自体は須恵器、土師器とともに備前焼等の中世遺物も出土していることから、やはり流れ込みによる二次堆積である。流れ込み以外の遺物としては、4・5層の淡黒色粘質土と黒色粘質土からある程度まとまって出土しており、遺物包含層がこの小5層であるとなっている。出土遺物は全般的に摩耗しており、細片が多かった。やはり段丘崖の下にあたることから、流れ込みの遺物が中心と考えられ、ローリングを受け摩耗したものであろう。遺物の出土状況からみると、拡張区1には3箇所、拡張区2では1箇所の遺物の集中が確認されている。拡張区1の集中遺物は北辺に1箇所、中央部に2箇所であり、中央部の2箇所は南北方向の帯状に遺物が並び出土している。拡張区2の遺物集中は小さく、出土量も少量である。遺物集中からの出土遺物は次のとおりである。

拡張区2の1では土師器甕の口縁部、2では土師器甕の胴部、須恵器杯底部(貼付高台)が主たる遺物である。拡張区1の3は土師器甕の細片、4では土師器甕の胴部、坏蓋、5では土師器坏底部(貼付高台)須恵器甕底部6では土師器甕細片等が出土している。北部の集中7～11では土師器甕の細片と須恵器が出土している。中央部の集中12～19における遺物は12で土師器盤の底部(貼付高台)、甕口縁部、須恵器鉢の底部がみられ、13では土師器甕の口縁部と胴部・14～17では土師器甕の胴部18では土師器甕の口縁部、19では土師器甕の口縁部と須恵器高坏の脚部と坏部が出土している。調査範囲が圃場整備の水路部分を対象としており狭いことから遺構も確認されず、出土遺物も包含層出土ではあるが細片が多いため全体的な状況は不明な点が多いが、拡張区において確認された遺物集中はやや混在もあるが、一定のまとまりを持つものと考えられる。包含層中の遺物には、やはり土師器の坏、甕や須恵器の坏、坏蓋、甕等がみられ、遺物集中との間にはやや時間差をみることができる。

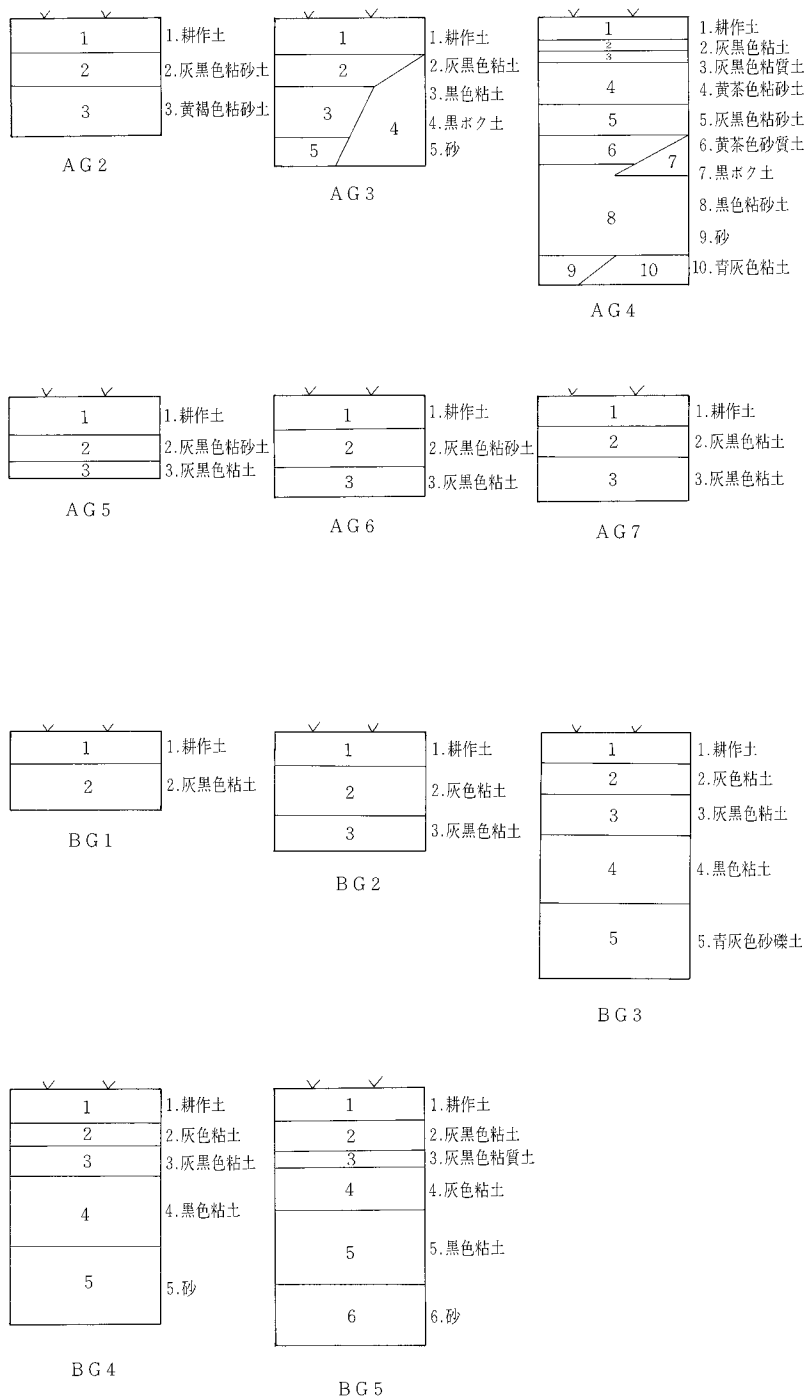


Fig. 5 試掘グリッド土層柱状図

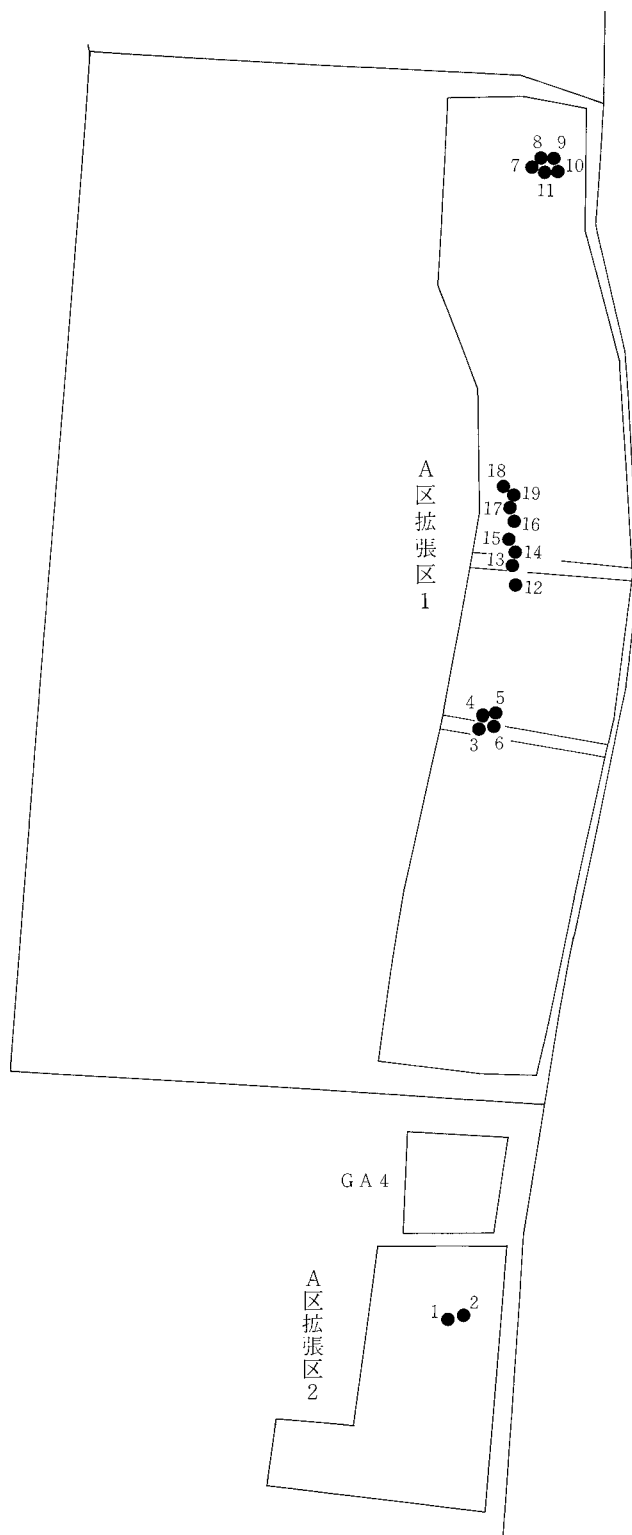


Fig. 6 A区拡張区遺物出土状況 (S=1/400)

4. 遺 物

今回の調査による出土遺物は、先に述べたように遺構が検出されず、すべて包含層出土である。細片が多く図示できる遺物は極めて少量であり、須恵器のみである。1は拡張区4層から出土した坏蓋である。宝珠つまみを持ち口縁部は欠損している。残存器高1.8cm、つまみ径2.4cmである。2は拡張区5層から出土した坏蓋である。やはり口縁部を欠き、やや扁平なつまみを持つ。体部の湾曲がやや大きいため残存器高は3.4cmと高く、つまみ径2.5cmである。3も拡張区5層出土の坪底部である。底径8.8cm、残存器高1.9cmであり、やや丸味を帯びた貼付高台である。4も5層出土の坏底部であり、底径は9.4cm、残存器高2.5cmである。貼付高台は外面の高台脇を強くなでる。5は壺口縁部であり、4層から出土している。口径28.6cm、残存器高5.8cmである。口縁は外反し、口唇部はやや肥厚する。口唇部直下に1条の突帯を貼付し、強いナデにより丸味を帯び。6は4層出土の長頸壺の頸部である。頸部径5.1cm、残存器高9.1cmである。口縁部は欠損するが、直立する頸部から外反する。頸部上部には2条の沈線が巡り、内面には体部との接合痕がみられる。7はB区の試掘グリッドG B 1の4層から出土した壺の肩部であり、頸部の立ち上りが若干残されている。頸部径5.2cmであり、残存器高3.7cmである。8は拡張区2の5層、遺物集中1出土の平瓶である。約半個体であり、口縁部は欠損している。体部径17.4cm、頸部径4.2cm、残存器高12.5cmである。

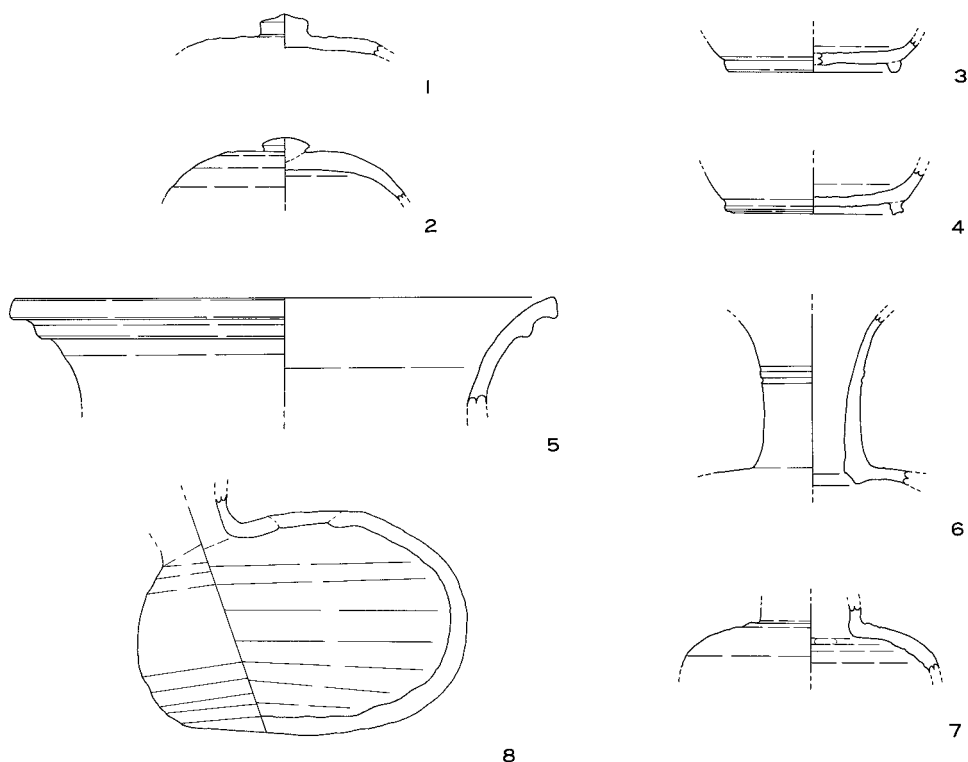


Fig. 7 出土遺物 (S=1/4)

5. ま と め

今回、圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象となった須江上段遺跡は、新改川の左岸に広がる遺跡である。分布調査により広範囲に及ぶ遺物の散布がみられたため、段丘面の上面と下面を含め須江上段遺跡として埋蔵文化財包蔵地の範囲が囲まれた。山田北部圃場整備事業に伴い須江上段遺跡の範囲についても試掘調査が行われ、段丘上面では部分的な削平があるものの、黒ボク土による遺物包含層と遺構が確認されている。これに対し下面では新改川の可川堆積物である砂、シルト砂礫などが基盤となり、流れ込みによると考えられる遺物が出土している。しかしながら、段丘崖下とその周辺では、かなりまとまった遺物の出土が確認されており、特に南部のオカノハナ地区では多量の遺物を含む包含層が検出され、圃場整備事業に伴う発掘調査が平成2年度に実施された。平成3年度も引き続き圃場整備事業の進捗に合わせ、ヨコキ地区においても段丘崖に沿って作業道・用排水路の整備が行われることとなり、発掘調査が実施された。発掘調査の結果としては、今回の調査範囲の中では遺構は検出されず、遺物の出土のみであった。確認グリッドからの遺物の出土状況からみると、北部において須恵器、土師器がまとまって出土しており、2箇所の調査区拡張により調査を終了した。調査区の層序は部分的に乱れもあるが基本的には4層淡黒色粘質土及び5層黒色粘質土が遺物包含層であり、拡張区2では上面からのボク土の流れ込みがみられ、須恵器・土師器が包含されるが備前焼等の中世遺物も混入しており、二次堆積であることが判明している。包含層出土の遺物は細片がほとんどであり、摩耗しているものもかなりみられることからすべてが原位置を保つ一次堆積によるものは耐え難い。しかしながら、5層中には遺物の集中がみられ段丘崖からのまとまった廃棄等が考えられる。特に拡張区1の中央部に検出された遺物の集中2箇所は南北に帯状に延びており、まとまっている。出土遺物は須恵器、土師器であり、壺、甕みられるが、細片が多く、時期等の点についての詳細は不明と言わざるを得ない。しかしながら図示した遺物からみればかなり時期差を持つ遺物が存在するが、8～9世紀を中心としており、須江上段遺跡の中心となる時期と考えられる。

写真図版

PL. 1



第A区 TR-1 (南より)



TR-1 セクション



第A区 TR-2 (南より)



TR-2 セクション



第A区 TR-3 (南より)



TR-3 セクション



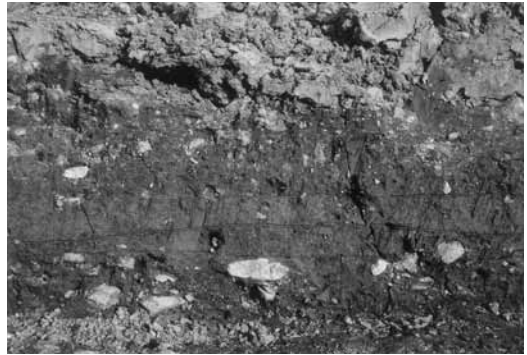
第A区 TR-4 (南より)



TR-4 セクション



第A区 TR-5 (南より)



TR-5 セクション



第A区 TR-6 (西より)



TR-6 セクション



第A区 TR-7 (南より)



TR-7 セクション



第B区 TR-1 (南より)



TR-1 セクション



第B区 TR-2 (南より)



TR-2 セクション



第B区 TR-3 (南より)



TR-3 セクション



第B区 TR-4 (南東より)



TR-4 セクション



第B区 TR-5 (南より)



TR-5 セクション



第A区 拡張区1 (南より)



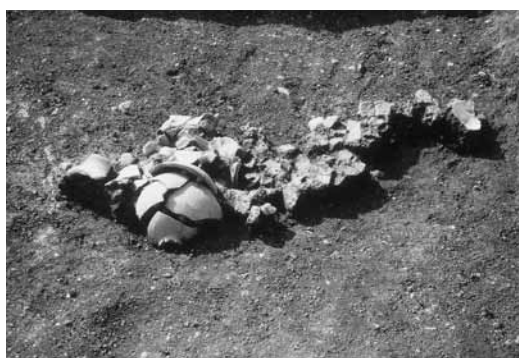
第A区 拡張区1 (北より)



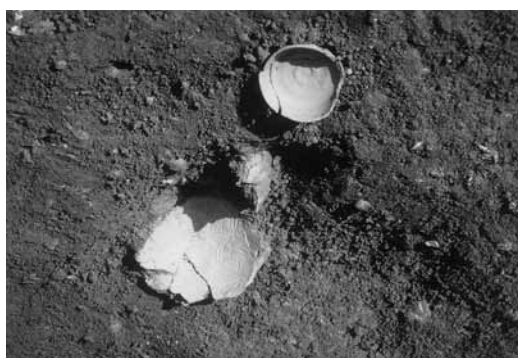
第A区 拡張区2 (南より)



第A区 拡張区1 遺物出土状態 (南より)



第A区 拡張区1 遺物出土状態 (東より)



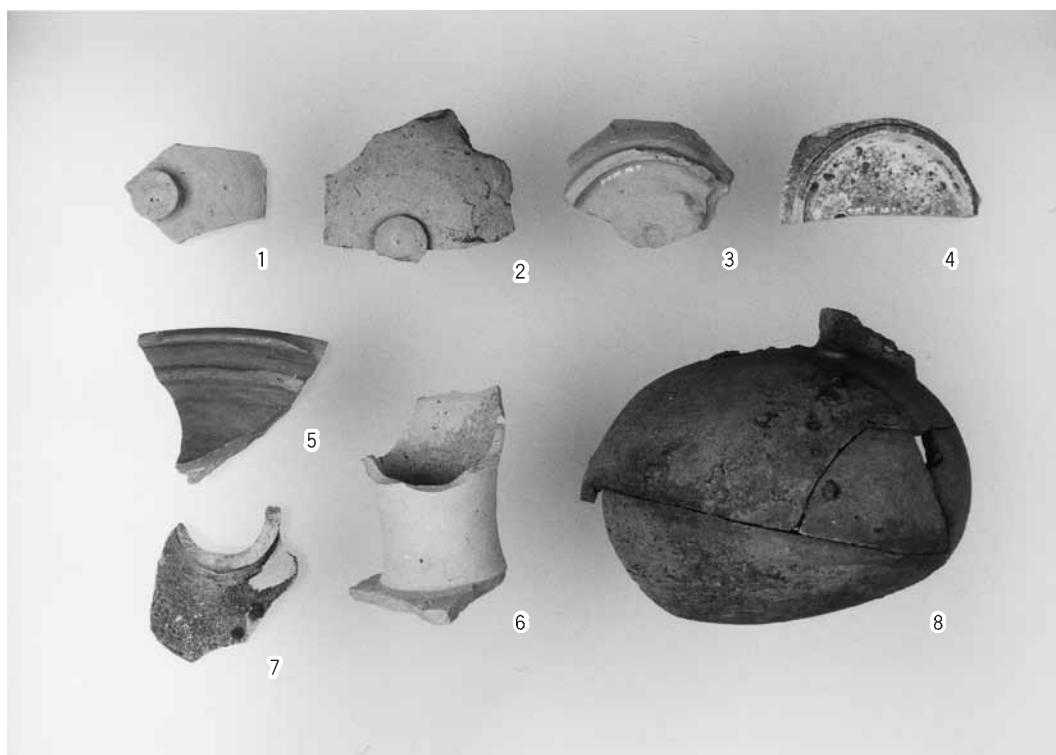
第A区 拡張区1 遺物出土状態 (西より)



第A区 拡張区1 遺物出土状態 (東より)



第A区 拡張区2 遺物出土状態 (北より)



出土遺物 1 (表)



出土遺物 1 (裏)

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集

須江上段遺跡－ヨコキ地区－

県営山田北部圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 2 . 3

発 行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原泉1437-1